

第4分科会 研究課題 「学校の組織・運営に関する課題」
 研究主題 「あらゆるハラスメントのない職場づくり」
 副 題 ～コンプライアンス推進上の教頭の役割を考えて～
 延岡支会1班

1 主題設定の理由

ハラスメントを予防することは、子どもの人権を守ること、教員の生活を守ることにつながる。では、どうすれば、勤務校からハラスメントがなくなるのか。

宮崎県内における懲戒処分件数は、平成27年度15件から令和4年度3件と激減した。これは、各校において、校内コンプライアンス研修を重ねてきた成果ではないかと考える。しかし、ここ10年間の推移を見てみると、最も少なかった令和4年度の3件から令和5年度9件、令和6年度16件と増加に転じている。また、延岡市において、わいせつ行為に関する事案が令和3年度に2件発生した。当時、教職員によるわいせつ行為は、本市だけでなく全国でも大きな問題となり、令和3年に「教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が制定された。しかし、宮崎県内のわいせつ行為に関する事案は令和6年度に3件発生している。さらに、本年度は全国で大きく報道されているとおり、教師が児童生徒等を盗撮し、画像などをSNS上で共有して逮捕されるという事件が起こった。

あらゆるハラスメントは、子どもの人権を著しく侵害し、さらには、教師の信頼を著しく低下させ、安心した学校生活を脅かしかねない。そこで、教員の信頼が失われ、ハラスメント行為によって仲間を失うことを避けるためにも、教頭としてさらにコンプライアンスを推進することが重要であると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

各校の現状を把握し、研修方法等を教頭会で研究することを通して、コンプライアンス意識を高め、あらゆるハラスメントのない職場づくりをめざす。

3 研究の概要と成果

(1) 研究の仮説

各校で実施したコンプライアンスチェックシートを考察し、高評価Aが100%に近づくような研修方法を実践することで、集団のコンプライアンスに対する意識が高まり、ハラスメントがなくなるであろう。

(2) 研究の実践

① コンプライアンスチェックシートの考察

ア 令和3年度

項目	内 容	A	B	C	D		
1 身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	272	93.2%	20	6.8%	0.0%	0.0%
2 ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	289	99.0%	3	1.0%	0.0%	0.0%
3 飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で帰らないように努める	266	91.1%	26	8.9%	0.0%	0.0%
4 人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	255	87.3%	35	12.0%	2	0.7%
5 個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報が入らず、情報は学校での直接面談で行う	207	70.9%	72	24.7%	13	4.5%
6 体罰・暴言	殴る・蹴らめをつかむ・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	234	80.1%	52	17.8%	6	2.1%
7 SNS	SNS等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面談で行う	284	97.3%	8	2.7%	0.0%	0.0%
8 予算	予算執行や給食費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、現金を一人で管理しない	266	91.1%	25	8.6%	1	0.3%
9 運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	212	72.6%	76	26.0%	3	1.0%

イ 令和4年度

項目	内 容	A	B	C	D		
1 身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	224	98.7%	3	1.3%	0	0.0%
2 ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	225	99.6%	1	0.4%	0	0.0%
3 飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で帰らないように努める	217	95.6%	10	4.4%	0	0.0%
4 人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	219	96.5%	8	3.5%	0	0.0%
5 個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報が入らず、情報は学校での直接面談で行う	182	80.2%	39	17.2%	5	2.2%
6 体罰・暴言	殴る・蹴らめをつかむ・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	208	91.6%	19	8.4%	0	0.0%
7 SNS	SNS等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面談で行う	226	99.6%	1	0.4%	0	0.0%
8 予算	予算執行や給食費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、現金を一人で管理しない	220	96.9%	6	2.6%	1	0.4%
9 運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	194	85.5%	32	14.1%	1	0.4%

ウ 令和5年度

項目	内 容	人数	A	B	C	D	
1 身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	275	92%	21	7%	2	1%
2 ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	296	99%	3	1%	0	0%
3 飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で帰らないように努める	270	90%	30	10%	0	0%
4 人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	274	92%	24	8%	0	0%
5 個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報が入らず、USB等記憶媒体の管理を適切に行うとともに情報モラルをしっかりと守る	213	71%	77	26%	10	3%
6 体罰・暴言	殴る・蹴らめをつかむ・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	268	89%	30	10%	2	1%
7 SNS	SNS等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面談で行う	294	98%	6	2%	0	0%
8 予算	予算執行や給食費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、通帳・現金を一人で管理せず、校長の下、組織で厳正に管理する	284	95%	12	4%	2	1%
9 運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	246	82%	50	17%	4	1%

エ 令和6年度

項目	内 容	人数	A	B	C	D	
1 身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	225	91%	18	7%	3	1%
2 ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	243	99%	3	1%	0	0%
3 飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で帰らないように努める	224	91%	22	9%	0	0%
4 人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	228	93%	18	7%	0	0%
5 個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報が入らず、USB等記憶媒体の管理を適切に行うとともに情報モラルをしっかりと守る	189	77%	49	20%	8	3%
6 体罰・暴言	殴る・蹴らめをつかむ・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	217	88%	29	12%	0	0%
7 SNS	SNS等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面談で行う	244	99%	2	1%	0	0%
8 予算	予算執行や給食費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、通帳・現金を一人で管理せず、校長の下、組織で厳正に管理する	239	97%	6	2%	1	0%
9 運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	208	84%	36	15%	3	1%

オ 令和3年度から令和6年度にかけての考察

(ア) 成果

4年間の経年変化を見てみると、高評価を維持してきたのが、「2ライセンス・7SNS・8予算」である。また、A・B評価の割合が年度を追うごとに伸びていることと、C・Dの評価が下がっていることが挙げられる。特に令和5・6年度は、Dが0%となり、Cも年度を重ねるごとに減少している。これは、宮崎県や延岡市が主催するコンプライアンス研修を受講し、各校で具体的に研修をした効果が顕れたと考えられる。また、学校によっては、毎月服務規律の振り返りを行ったり、県コンプライアンス通信を読み合わせたりする学校もあり、全体的なコンプライアンスに対する意識が高まったといえる。

(イ) 課題

依然として「1身体的接触、3個人情報、10運転(交通違反)」について、C項目がついている。C・D評価がつくことは課題であるが、反省すべき自覚もあるので今後改善が考えられる。また、ふとしたときに心の隙間に入られる余地があることが考えられるので、さらなる研修の工夫が必要である。

カ 令和7年度の取組

令和7年度は、これまでのチェックシートの内容を更新した。理由は、内容をより具体的にすることで、さらなるコンプライアンス意識を高めるためである。令和3年度から令和6年度の4年間行ってきた延岡市中学校教頭会延岡支会1班の研究結果と、令和6年度から宮崎県公立学校コンプライアンス推進協議会が全県下で取り組んでいる4つの項目を合わせたチェックシートを新たに作成し調査を行った。

(ア) チェックシートの内容

①R3～R6での延岡支会1班の取組

- 身体的接触
- 個人情報
- 自動車等運転中の交通違反

②R6からの県の取組

- セクハラ・わいせつ行為の防止
- 飲酒運転の防止
- 体罰・暴言等の防止
- 準公金等の不適正な取扱

以上の項目について、各校で調査・考察を行い、集団としてのコンプライアンスの意義を高めていきたい。

(イ) 令和7年度チェックシートの考察

		回答数178名 【数字は%】			
		A	B	C	D
1	身体的接触	90.8	2.3	2.9	4.0
2	個人情報	73.9	20.5	5.7	0.0
3	自動車等運転中の交通違反	80.0	20.0	0.0	0.0
4	セクハラ・わいせつ行為の防止	95.4	4.0	0.6	0.0
5	飲酒運転の防止	85.2	10.2	1.7	2.8
6	体罰・暴言等の防止	80.7	17.6	1.7	0.0
7	準公金等の不適正な取扱	90.9	8.0	1.1	0.0

分析すると、「3自動車等運転中の交通違反」のA・B評価の割合が100%であり、「4セクハラ・わいせつ行為の防止」の割合も高かった。このことは各校のコンプライアンス研修の成果といえる。しかし、「2個人情報」のA評価が73.9%と低い結果となった。記録としての写真を撮る際、学校に置いてある備品の数が足りず、各自で撮っていることが理由でないかと考える。また、「1身体的接触」のC・D評価も少し高くなっている。生徒指導における生徒の行動を制止させるときにおこる接触や、職場の雰囲気及び対人関係など考えられる要因は様々である。このような調査を継続して行い、教職員に結果を公表しながら啓発していくことが、コンプライアンス意識高揚のために大切だと考える。

研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① コンプライアンス研修の状況等を延岡市内の教頭同士で情報共有したり、意見交換したりすることで、市内の共通認識ができた。
- ② これまでのチェックシートの内容を更新し、内容をより具体的にすることで、コンプライアンスに則った行動目標が明確になった。

(2) 研究の課題

- ① これまでのチェックシートの内容を更新し、より具体的にすることで、評価が下がっている項目が増えた。評価が下がっている項目に対して、手立てを模索していかなければならない。
- ② 「2個人情報」について、生徒の活動の様子を個人カメラで撮っている教員の中には、備品が足りないという声も少なくない。教頭として、こうしたハード面の整備もしっかりそろえていく環境づくりも大切だと考える。
- ③ 事案を発生させないために、「私たちにできることは何か。」を常に考え、今後も未然防止と働きやすい職場の雰囲気づくりに努めていく必要がある。